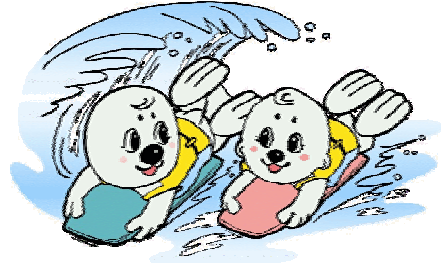


平成18年5月31日
第十管区海上保安本部

問い合わせ先
第十管区海上保安本部
(代表 099-250-9800)
警備救難部救難課
救難課長 白澤(内線 3250)
海洋情報部監理課
監理課長 米須(内線 2510)
交通部企画課
企画課長 水澤(内線 2610)



メールマガジン「うみまる通信」配信一周年

「第十管区マリンレジャー安全推進室」がマリンレジャー等による死亡・行方不明者の減少を目指し、「自己救命策確保」の啓発活動等を推進するため、配信しているメールマガジン「うみまる通信」が今月で一周年を迎え、今月22日に第13号を配信しました。

配信個所は、当初の363個所から現在(4月1日現在)では527個所に増えました。

「うみまる通信」は、昨年5月20日「自己救命策確保」の3つの基本

- **ライフジャケットの常時着用**
- **携帯電話等の連絡手段の確保**
- **海の緊急電話118番の有効利用**

の啓発活動等を推進するため、鹿児島・熊本・宮崎各県の地方自治体、離島郵便局、漁業・海事関係者、道の駅等の機関に、海保初の安全情報紙としてメール配信を開始しました。

その後、離島の小中学校やブルーシー&グリーンランド海洋センター等の団体、配信を希望される個人にも配信を開始、現在、505の団体及び22名の配信希望の方に配信しています。

読者からは、「海に囲まれた日本にとって大変貴重な情報だ。」「海難事故について、具体的に紹介されており、海難防止に役立てたい。」等のご意見を頂いております。

配信先	創刊時配信数	現在の配信数
県庁関係（熊本・宮崎・鹿児島県）	11	11
鹿児島県の市町村役場	71	73
鹿児島県の離島郵便局	75	75
鹿児島県の離島商工会	16	16
鹿児島県の離島観光協会	4	4
鹿児島県の漁業協同組合	42	40
熊本県の市町村役場	59	58
熊本県の漁業協同組合	19	19
宮崎県の市町村役場	37	36
宮崎県の漁業協同組合	7	7
道の駅	20	44
釣情報誌、報道機関	2	9
鹿児島県の離島小中学校		14
鹿児島県のB & G海洋センター		21
熊本県のB & G海洋センター		14
宮崎県のB & G海洋センター		2
マリーナ、小型船舶安全協議会		7
ペンション、レジャー施設		55
配信希望者		22
合計	363	527

【アンケート実施結果(声)】

海に囲まれた日本にとって貴殿からの情報は大変貴重なものと痛感しています、と同時に感謝の気持ちでいっぱいです。奄美群島広域事務組合、奄美群島観光連盟から毎月の情報を提供いただいておりますが、貴殿からの容量と比べ10分の1程度です。ぜひ当ホームページに情報として提供したいと考えています。
〔奄美大島在住 HP管理者(個人)〕

プリントアウトの上、庁舎掲示板へ張っております。また、庁舎内の職員へもメールで流しております。海難事故について、その事例等の紹介により、どのような場合に事故がおこりやすいか？ 事故を起こさないためにはどのように注意すればいいか等、良く理解でき、ためになる。現在台風の被害が年々増えてきているため、台風が発生する期間については特集といった感じで記事を増やしていただければと思います。

〔市水産振興係〕

私たち喜界島は周りを海に囲まれているため海難事故は何時起きてもおかしくない環境にあります。そのためメルマガの情報は島民にとって事故の未然防止、救助活動等に大変役立つものと考えております。したがって地域への情報提供については、情報誌の掲示の他、町ホームページにも掲載して周知を図っております。

〔離島町役場〕

内容には関心があるが、掲示するまでいたっていない。1号からずっと、カラー印刷してファイリングしている。ファイルを公衆室に配備することを検討中。漁業関係者も多い土地柄だが、高齢者が多いなどの理由から郵便局に来てもらってもこういった情報を読んでいただけるかは疑問です。

〔離島郵便局〕

創刊号から13号までのトピックス

	発行日	見出し	内容
創刊号	平成17年5月20日	居眠りに御用心	居眠り運航注意 ゴールデンウィーク期間の海浜事故
2号	平成17年6月21日	梅雨といえば・・・	釣行・磯釣りの注意事項 知林ヶ島の渡島情報 ダイバー事故情報
3号	平成17年7月20日	さあ、夏休み！されど水難、海難事故には気をつけて	特集「子供たちを守る」 もしも、溺れている人を見つけたら 海の危険生物
4号	平成17年8月19日	マナーを守って、かっこよく！	水上オートバイの注意事項 最近の海浜事故
5号	平成17年9月22日	台風一過、思わぬところで！	流木、漂流物に注意 ウェイクボードの事故に気を付けて
6号	平成17年10月24日	海も涼しくなって秋模様	低体温症について 秋の釣りシーズン到来！秋・冬期に事故多発
7号	平成17年11月22日	ご存知ですか、AEDとCPR	救命処置に関する豆知識 救命胴衣で大切な命を守ろう
8号	平成17年12月20日	お正月は、初乗り、初釣り、初潜り？！	サーフィンの注意事項 サーファー事故事例
9号	平成18年1月20日	安全祈願、海の事故0への願い	平成17年の事故統計 ライフジャケットとの着用と生存率
10号	平成18年2月20日	寒グロシーズンですが・・・釣りの事故が多発中です	マリレジャーの事故原因について 最近の釣り事故事例 マリレジャー別事故形態
11号	平成18年3月20日	春はもうすぐそこに、桜前線真っ只中！	シーズン前の準備と潮干狩り情報 水上バイク、シーズン前の再点検 灯台の豆知識
12号	平成18年4月20日	愛艇のエンジンは大丈夫ですか？	出港前点検はしっかりと ゴールデンウィーク期間の事故防止
13号	平成18年5月22日	海の安全情報はMICSで！	沿岸域情報提供システムについて ゴールデンウィーク期間のマリレジャー事故発生状況



らみまる通信

JAPAN COAST GUARD

海上保安庁
第十管区海上保安本部
マリネジャー安全推進室

NO. 13号
平成18年5月22日

海の安全情報はMICSで！

～出航前の情報収集をしっかりと～

ゴールデンウィークも終わり、梅雨の時期を迎えようとしています。5月13日に奄美地方が、翌日には沖縄地方が梅雨入りしました。九州南部にも梅雨前線が近づき不安定な天気が多くなることが予想されます。

出航前、マリネジャーの前には、新聞やテレビの気象情報の収集だけでなく、海の安全情報や岬などの気象情報を各海上保安部で提供しているMICS（沿岸域情報提供システム）サイトで確認して、より安全な航行やマリネジャー活動をお願いします。

～知ってますか？MICS！～

海上保安庁では、プレジャーボート、漁船などの船舶運航者や磯釣り、マリンスポーツなどのマリネジャー愛好者の方々に対して、全国の海上保安部からリアルタイムに海の安全に関する情報を提供する「沿岸域情報提供システム（Maritime Information and Communication System：MICS）」を運用しています。

MICSでは、海上における安全のより一層の向上を目指して、地域に密着した情報を使いやすく、分かりやすい形に分類・整理し、インターネットなどを通じて、

「誰もが簡単に」 **「必要な情報を必要なときに」** **「誰にでも分かりやすく」**

を目標にリアルタイムに情報提供しています。

MICS情報を活用することにより、気象・海象情報の不足による海難の未然防止を目指しています。

・灯台の気象情報を30分毎に更新

南九州各地の灯台11カ所において観測した風向・風速など最新の気象情報を、ホームページや携帯サイトなどにより提供しています。

・灯台や岬にライブカメラを設置！

大隅半島南端佐多岬、奄美大島北端笠利崎、串間市都井岬にライブカメラを設置し、ホームページで公開しています。

カメラは自分で操作することができます。



PCサイト(MICS)

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/index.htm>

携帯サイトQRコード

熊本



油津



鹿児島



串木野



名瀬



写真は、喜界島上嘉鉄港の上空からの様子です。

【鹿児島航空基地提供】



私の町、私の母港

ゴールデンウィーク期間のマリンレジャー事故の発生状況

第十管区海上保安本部では、4月28日から5月7日までの10日間、「ゴールデンウィークにおけるマリンレジャー安全推進活動」を行いました。

この期間中、4件(10人)のマリンレジャーに伴う事故が発生し、この事故でサーフィン中の1人の方が亡くなりました。



【事例1 乗揚げ】

4月29日、熊本県高浜港を、釣客4人を乗せ、沖合に向け出港した遊漁船が、岩場に乗り揚げる事故が発生しました。

船長(70歳代)が魚群探知機に気を取られて、船の位置を確認することなく、勘のみで航行したことが原因でした。船は、岩場に乗り揚げた衝撃で船体が傾き、間もなく転覆しましたが、船長を含む乗船者5人は、転覆した船につかまっているところを、付近を通りかかった漁船に発見され、全員救助されました。

【教訓】慣れた場所でも船の位置を確認することが大切です。万一に備えライフジャケットを常時着用することも大切です。

【事例2 サーフィン中の事故】

5月3日、宮崎県日向市の海水浴場で友人とサーフィンに出た男性(20歳代)が、岩場に近づいたため沖に出ようとしたところ、潮に流されて戻れなくなったという事故が発生しました。連絡を受けたサーフショップ従業員等により救助され怪我等はありませんでした。

【教訓】無理をせず、技量にあった場所で楽しむことが大切です。気象や潮流等の海象にも十分注意しましょう。

【事例3 サーフィン中の死亡事故】

5月4日、循環器系の持病をもった男性(30歳代)が、沖合30メートル付近にうつ伏せ状態でハーフボードと共に浮いている状態で発見される事故が発生しました。付近のサーファーにより引揚げられましたが、心肺蘇生措置の甲斐なく、死亡が確認されました。


この方は、循環器系の持病があり、数年前から投薬治療中であったことから、サーフィン中に発症し、これが原因で溺死したものと思われます。

【教訓】体調管理を十分に行い、無理をしないで楽しむことが大切です。

【事例4 ボートから海中転落】

5月3日、鹿児島市の沖合において、釣りに出かけるためFRP製手漕ぎボートに男性3名が乗り、うち1名がボート内を移動したところ、バランスを崩して海に落ち、ボートが動揺等により傾き、残りの2名も海に落ちる事故が発生しました。貸しボート店長が3名を救助し、転覆したボートも曳航しました。

【教訓】小さなボートは、人の移動や小さな波(船の航走波等)でもバランスを崩し転覆することがあります。乗船定員を超えないことや万一に備えライフジャケットを常時着用することが大切です。



**自己救命策確保
~3つの基本~**

- 必ず着用! ライフジャケット
- 必ず持とう! 携帯電話
- もしものときは! 118番

ライフジャケット着用者の生存率は約8割!